

日本本土のほぼ中央に位置する石川県は、「金沢」、「能登」、「加賀」、「白山」の大きく4つの地域に分かれ、それぞれの地域が固有の文化・風習を有しています。安土桃山時代、前田利家がこの地を治め、「加賀藩」となりました。江戸時代には、120万石の大都市になり、江戸末期には人口が日本の4位の都市へと発展しました。また、三方が海に面している能登半島では、古くから盛んに大陸との交流が行われてきました。特に渤海からの使者は、度々この地を訪れ、文化交流が行われてきました。

そんな能登半島の先端に位置する珠洲市蛸島町には、江戸時代から伝わる「早船狂言」があります。毎年9月の祭礼の夜に高倉彦神社で開催され、その年に二十歳を迎える青年達によって「早船狂言」が演じられてきました。現在は石川県の重要無形文化財に指定されています。先人が育んできた地域の特色ある風土や文化に関心を持ち、それらが培われてきた過程と努力に思いを馳せることは、郷土への愛着に繋がるものであり、郷土を大切にすることを育み、地域社会の一員としてこれらを継承していこうとする態度も養われていくものと思われれます。

全国公立学校教頭会研究大会石川大会が開催される8月からは、県内各地で夏祭りが盛んに行われます。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となっていました。昨年から少しずつ再開の兆しが見えて参りました。

さて、令和5年8月3日から8月4日までの2日間、第65回全国公立学校教頭会研究大会を、この「石川県」で開催致します。本大会では、コロナ禍の中にあっても、より多くの会員の方が参加できるように、参集型とオンライン型を融合した「ハイブリット形式」で開催する予定です。また「石川大会」は、第13期の1年次にあた

## 全国公立学校教頭会研究大会 石川大会



令和5年度 石川大会実行委員長  
柳瀬 道雄

り、全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」をもとに、「ふるさとに誇りをもち 未来を切り拓く心豊かな人づくりを目指す これからの学校運営の推進」をサブテーマに設定しました。第12期3年間の研究成果や課題を踏まえ、さらなる研究の推進に取り組んで参りたいと考えております。

近年は、グローバル化の進展やAIをはじめとする先端技術の高度化など、社会が大きく変化しております。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生命や生活のみならず、社会、経済など、多方面に大きな影響を及ぼしました。

こうした先行きの見通せない時代にあるからこそ、学び続ける意欲を持ち、多様化する課題に主体的に取り組み、他者と共に支え合い高め合いながら、未来を切り拓いていく力が求められています。

本県では、ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献する人材の育成を目指しております。自然や歴史・伝統・文化に学び、ふるさとに誇りを持つことは、豊かな人間性を育み、広い視野に立って社会に貢献する人づくりにつながっていくものと考えます。

夏の「石川大会」では、各地の貴重な研究成果を共有するとともに、研究主題やサブテーマに迫る活発な意見交換を通して、副校長・教頭がどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な方策や取組を進めていくことができるか、実践研究の結果から明らかにしていこうと思ひます。

そして本大会が、子供たち一人一人の多様な個性と能力を伸ばし、主体的に人生を切り拓いていく力や、他者と共に支え合い高め合いながら、新たな価値を創造していく力を身につける手立ての一助となるよう願っております。